

青山

発行/梅窓院 編集/青山文化村
発行日/平成16年6月1日
発行人/中島 真成
住所/〒107-0062東京都港区南青山2-26-38
電話/03-3404-8447
FAX/03-3404-8107
ホームページ/http://www.baisouin.or.jp/
E-Mail/jodo@baisouin.or.jp

題字/浄土門主総本山知恩院門跡
第八十六世中村康隆現下

増上寺御忌大会
平成十六年四月二日〜七日

御忌

ぎよき

御忌とは、宗祖法然上人の
忌日法要のことをいいます。

上人の忌日は一月二十五日で、
元来その時期に修されていま
したが、明治以降は、暖かく
参詣し易い四月に行なわれる
ようになりました。

増上寺では四月五・六・七
の三日間は、日中法要が営ま
れ、御忌唱導師が大門から大
殿まで桜の下を練り歩きます。
「お練り行列」は江戸時代か
ら続く伝統行事で、現在も盛
大に行なわれております。



来年度の御忌唱導師には、梅窓院の所属す
る東京教区城西組から出る予定となっていま
す。組から唱導師が出るときは組あげて応援
します。梅窓院でも団参を組む予定ですので、
みなさんよろしくお願ひ致します。

増上寺御忌大会 唱導師お練り行列。梅窓院詠唱教室より有志が参加しました。

住職挨拶
梅窓院第二十五世
中島真成

自分の スピード

春彼岸法要会で
挨拶する中島住職。



みなさん、お変わりありませんでし
ょうか？

さて、この二月に行った仏教国、スリ
ランカへの団参で気づいたことを話させ
てもらいます。

まるで日本の三十年前に戻ったようで、
一言でいうと「何かに追われていない生
活」がそこにはありました。純真そのも
の子供たち。親切でのんびりした大人
たち。

何かみんなが、自分のスピード、人間
のスピードで動いているように見えまし
た。日本に比べたら便利さは比較になり
ません。ですが、物で生活を豊かにした
日本が失ったものがたくさん残っている
ように思えました。

社会の動きに惑わされず、何が大切な
ことを忘れてはいけない、と改めて思
った団参になりました。

さて、今夏の施餓鬼会で披露する本堂
の荘厳仏具ですが、皆様からの寄付が集
まり始めました。建物は五十年もすれば
古くなりますが、仏具は五百年経っても
色あせません。

金額の多寡ではなく、一人でも多くの
方の手で作ったということに価値がある
ように思います。これからも一人でも多
くのご協力をいただければ、と切望して
おります。

老

第一回 (四回連載)

歳を重ねればこそ

長野市十念寺 副住職

袖山 榮輝 上人

「いつたい、いつから人は青年でなくなるのだろうか。たとえば浄土宗には全国の組織青年会がある。青年僧、いわゆる若住職たちが主な会員となつているが、組織として会則上の年齢制限がある。地域によって多少の差はあるものの満十八歳以上、四十三歳までが一つの基準になつてゐる。」

年齢の上限が四十三歳であるというのは、法然上人が比叡山を下り新たに浄土宗の開

宗を決意されたお歳にちなんでゐる。その歳までにあらたの試行錯誤をやり終え、そろそろ己の境地を切り開けようということなのだろう。一つの見識といえよう。

しかし、数え四十三の本厄を迎える私にとっては、精神面の完成よりも肉体面の衰えの方が、青年か否かの境界線であるような気がしてならない。「いつまでもお若いですね」などとお世辞を言われて悪い気はしないが、微妙だけ

押しつけていては煙たがられても致し方あるまい。

お釈迦さまの教えに、「人が年老いていく間こそ戒をまもつていければ」素晴らしいことである。「サンユッタ・ニカーヤ」1・6・1(試訳)という言葉がある。

戒といえば「不殺生」「不妄語」などが思い浮かぶであろうか。殺生をしてはならない、嘘をついてはならない。戒を「いましめ」と読めば何処かいかめしい気もするが、仏教語としてインドに語源を尋ねれば、戒は「望ましい生活習慣」という程度の意味である。文法上も「くしてはならない」ではなく「くしないほうがいい」という願望法が用いられている。だから「生きとし生けるものには慈しみをもって接しよう」「思いやりのある言葉遣いを心がけよう」と一歩踏み込んで理解しても原意と違えることはない。

れども正直、肉体・気力の衰えを感じざるを得ない。すでに青年とは言い難いのである。ところで年齢制限のギリギリまで青年会活動に従事している、いつまでも青年の間でいたいという己の願望とはかかわりなく、二十代・三十代の青年僧からは何でも言い合える仲間とはすでにみなされていぬ事実が気付かされる。どうも煙たい存在であるらしい。

というのも、会議をしてい

ても私の何気ない一言が「ダメ出し」となつて彼らを傷つけ、右往左往させているのだ。アドバイスのつもりが理不尽な要求として受け止められてしまう。そうした反応に初めは私もとまどつた。もちろん良かれと思つて発言しているのだが、よく考えてみれば十や十五も歳が違うのだ。試行錯誤を重ねてきた者と、これから重ねていく者。悩みながらも一生懸命努力している者に対して、頭ごなしに結論を

人は歳をとるごとに経験を重ねていく。しかし、その経験を押しつけると後進の努力を阻害することになる。だからこそ重ねた経験に慈しみや思いやりを植え込んでいく営みが必要とされるのである。歳を重ねれば重ねるほど「戒をまもることが素晴らしい」生き方となる。

(浄土宗総合研究所 研究員)

3・4月の行事

御忌詠唱大会
4月3日(土) 増上寺 大殿



詠唱教室からの参加も今年で5回目。彼岸和讃を奉納致しました。

春彼岸法要
3月20日(土)
梅窓院 本堂

例年になく寒いお中日でしたが、多数の檀信徒の皆さまが法要に参加されました。



第3回 文化講演会
チベット文化
について
4月9日(金)
梅窓院 観音堂



講師はチベット文化研究所所長 ペマギャルボ氏。

盂蘭盆会法要

七月十三日(火)

午前十時半)

梅窓院観音堂

特集お盆とお施餓鬼

ここでは精霊棚の飾り付例をご紹介します。各地方によって風習が異なりますので、これに限るといえるものではありません。

精霊棚の飾り方

- ①仏壇前に小机を出し、真菰まこも（白布で代用可）を敷く。
- ②中心に位牌、過去帳を置く。左側に花を飾り、右側にろうそくを立てる。
- ③季節の野菜や果物、故人の好物を供物として飾る。供物の邪気を払う為のものとして、蓮の葉（小皿）の上にあかみず闍迦水（水）を入れ、ミソハギ又はしきみ櫛の束を置く。
- ④水の子（さいの目に刻んだナスと洗米を水に浸したものを）を供える。（先祖の霊だけでなく、全ての仏様や餓鬼への供物。）
- ⑤キュウリに割り箸の足を付けた馬と、ナスに足を付けた牛を飾る。（先祖の霊があつた世から馬に乗って早く帰ってくるように、また、お盆が明けには牛に乗ってゆっくり戻っていくようにという意味がある。）

お棚行と盂蘭盆会法要

お棚行とは盂蘭盆期間中、僧侶がご自宅にお伺いし、ご先祖様の霊を弔うことをいいます。精霊棚の前で読経することから「棚経」と呼ばれています。

今年新盆を迎えられるお檀家さまのご自宅を中心にお伺い致します。盂蘭盆会法要は七月十三日にご致します。本堂にて皆さまのご先祖さまをご回向致しますので、ご家族皆さまのお越しをお待ちしております。

精霊棚の飾り付例。



仏教
研究所
だより

第三回
念仏と法話の会

二月十日(火) 開催報告

法話 長野教区 寛慶寺住職

水科 善隆 上人

今回は水科上人が最近訪れたというチベットチベットの風習について、スライド映像を交えながらお話頂きました。参加された皆さまは熱心に聞き入っていました。

施餓鬼会法要

七月二十一日(水)

別時念仏会／半齋供養

午前十時半～ 本堂

お齋 (お食事を頂きます)

午後十二時～ 観音堂

御説教／大施餓鬼会法要

午後二時～ 祖師堂

施餓鬼塔婆お申込み方法

同封のハガキに記入し、七月七日必着でお申込み下さい。塔婆回向料は一本一万円とさせていただきます。施餓鬼法要に参加される方は、人数も合わせてご記入下さい。

お支払方法

同封の振込用紙で郵便局にてお支払頂くか、当院受付までお持ち下さい。(銀行、コンビニでのお振込みは出来ません。)

お施餓鬼のはなし

お施餓鬼の由来は「救抜焰口餓鬼陀羅尼經(くばつえんくがきだらにきよう)」というお経によると言われています。

それによると、お釈迦様の十大弟子の一人である阿難尊者(あなんそんじゃ)が瞑想している時、焰口(えんく)という餓鬼が現れ、阿難尊者に向かつて「お前は三日後に死んで、我々と同じ餓鬼道に堕ちる」といいました。

餓鬼道とは、「欲」にとらわれた者が堕ちる世界で、堕ちた者を餓鬼といいます。餓鬼が口にしようとする物は、口の前まで持ってきた所で燃えてなくなってしまうので、何一つ食することが出来ず、常に飢えと渇きに苦しんでいる世界です。

驚いた阿難尊者は、どうしたら助かるかと尋ねると、その餓鬼は「無数の餓鬼達に食べ物を通して供養せよ」と言いました。しかし無数の餓鬼へ食べ物を通してはとても無理です。

そこでお釈迦様に教えを請い、限られた供物を無限に増大させる「陀羅尼(呪文のようなもの)」を唱え、無数の餓鬼達に食物を通して供養しました。

その結果、餓鬼達は皆救われ、その功德により阿難尊者も寿命を延ばすことが出来たといわれています。施餓鬼法要は、この由来に基づいて行われます。

現在の施餓鬼法要は、餓鬼だけでなく、先祖代々、広く無縁の諸精霊にも、供物を無限に増大させる陀羅尼を唱え、水向け、塔婆で供養します。また同時に、皆さん自身に与えられた生命に感謝し、さらに長寿を願うという意味もあります。

とかく自分自身の欲望を満たそうとする私たちですが、人間の欲望は果てしなく、満たされないイライラで苦しむばかりです。つまり餓鬼と同じなわけです。

普段、お念仏をお称えする私達です。欲に振り回され、餓鬼と化している自分自身の心を反省し、足る事を知り、自分より困っている人がいれば施しをする気持ちを起こし、互いに助け合っていく事が大切なのではないのでしょうか。無縁仏や餓鬼に施して供養した功德を、新亡の霊や先祖代々の諸霊に回向し、供養する意味をもつ、この施餓鬼法要にぜひ参加して頂いて、自他ともに救われる功德を積んで頂きたいものです。

(法務)

特集 お盆とお施餓鬼

梅窓院 本堂内陣 莊嚴佛具

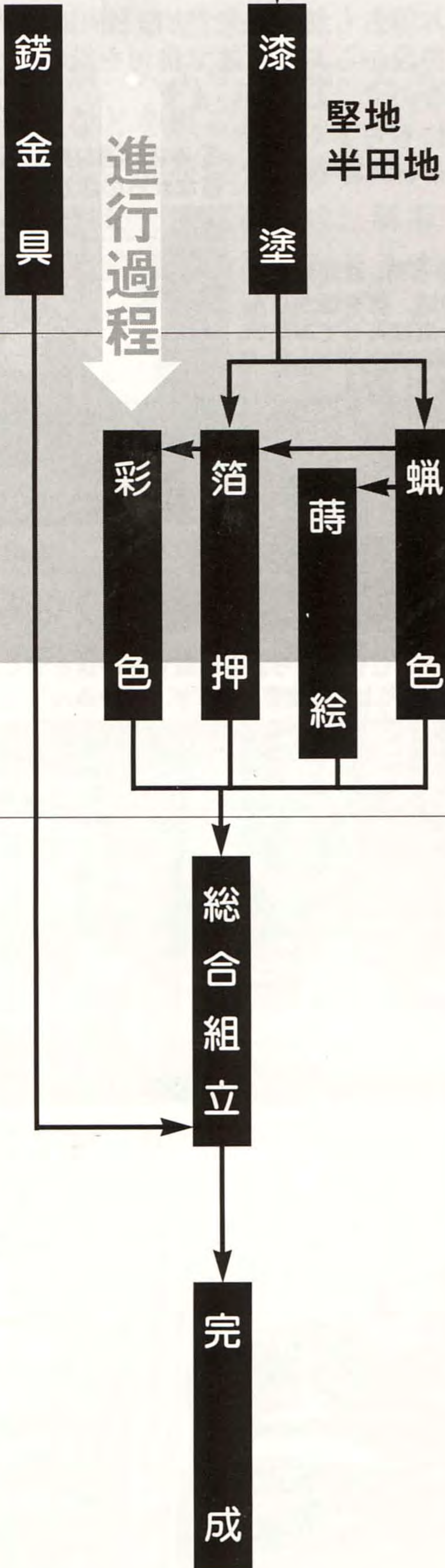
約二年の歳月をかけ、京佛具職人によって製作が進められてきた莊嚴佛具がいよいよ完成を迎えます。新たに彩られた本堂内陣は極楽浄土の光を放ち、私たちを敬虔な心に導くことでしょう。六月下旬より本堂にて組立て作業に入り、七月中旬には設置完了の予定です。十一月二十日の落慶法要でのお披露目が待たれます。

ろいろ 蝟色塗

漆塗りの中でも、特に高度な作品にのみ施される工程。漆塗り、乾燥、研磨とシンプルな作業ですが、湿度などわずかな気象の変化を感じ取り、その日の「漆」の状態を見ながら進めなければなりません。蝟色職人曰く「漆は生き物」。一日も目を離す事は出来ない、繊細な工程です。

蝟色塗が施された表面は一点の曇りもない鏡の様に、大変美しく仕上がります。

漆の乾燥具合を見極め、絶妙なタイミングで磨く。見極めを習得するには、長年の経験が必要。



研磨には油桐やアセビの炭が用いられ、段階によって使い分ける。これらは現在入手困難な稀少品。

箔押

箔押は、漆塗りされた素地の上に金箔を一面に張り詰める技法で、佛具・佛壇など幅広く利用されています。

黒漆地に箔押用の漆を塗り、生乾きの時に箔を貼り、その上から真綿で押さえます。

仕上がりは重厚感の漂う黄金の色彩を放ちます。

箔をテンゴ良く張り合わせていく。

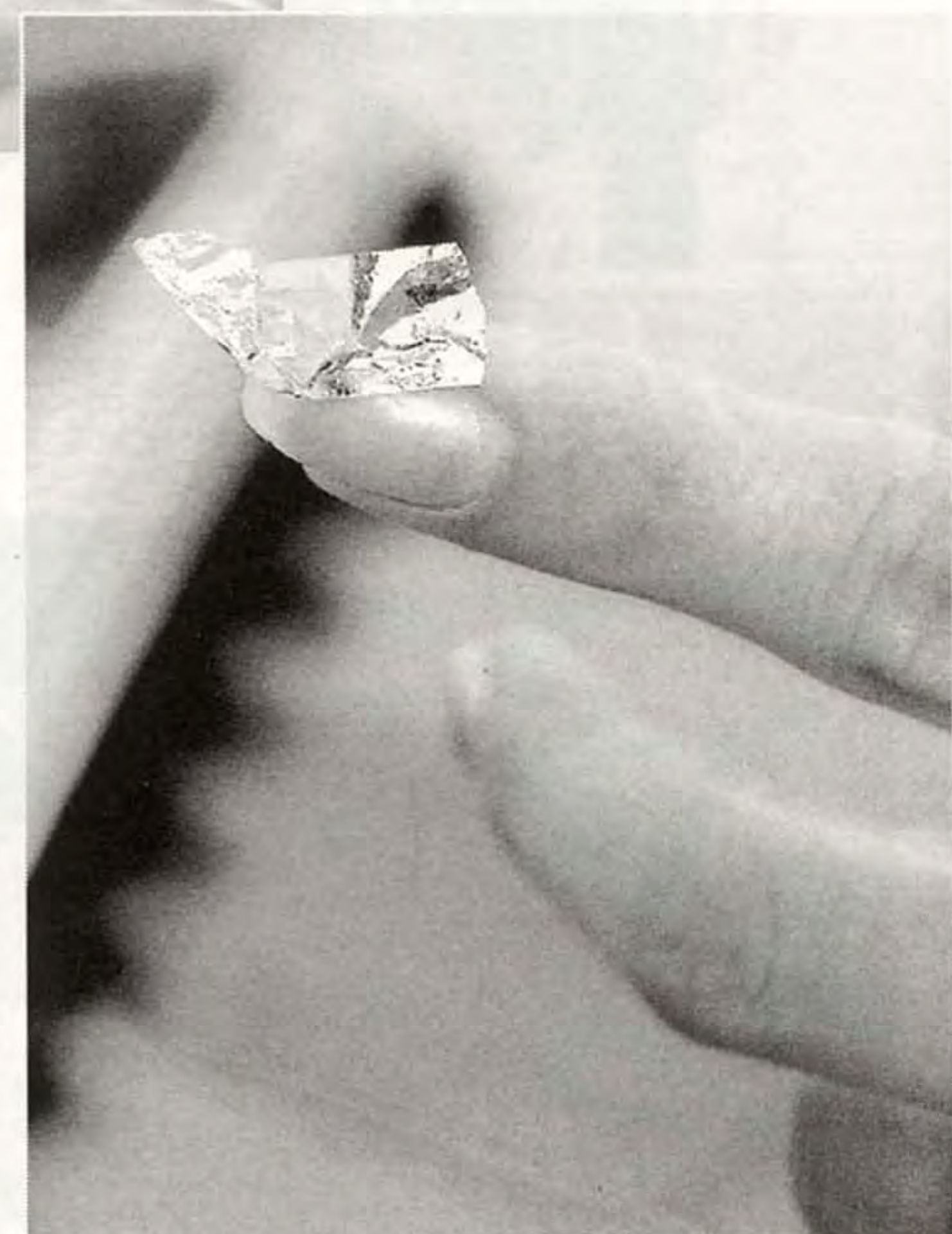
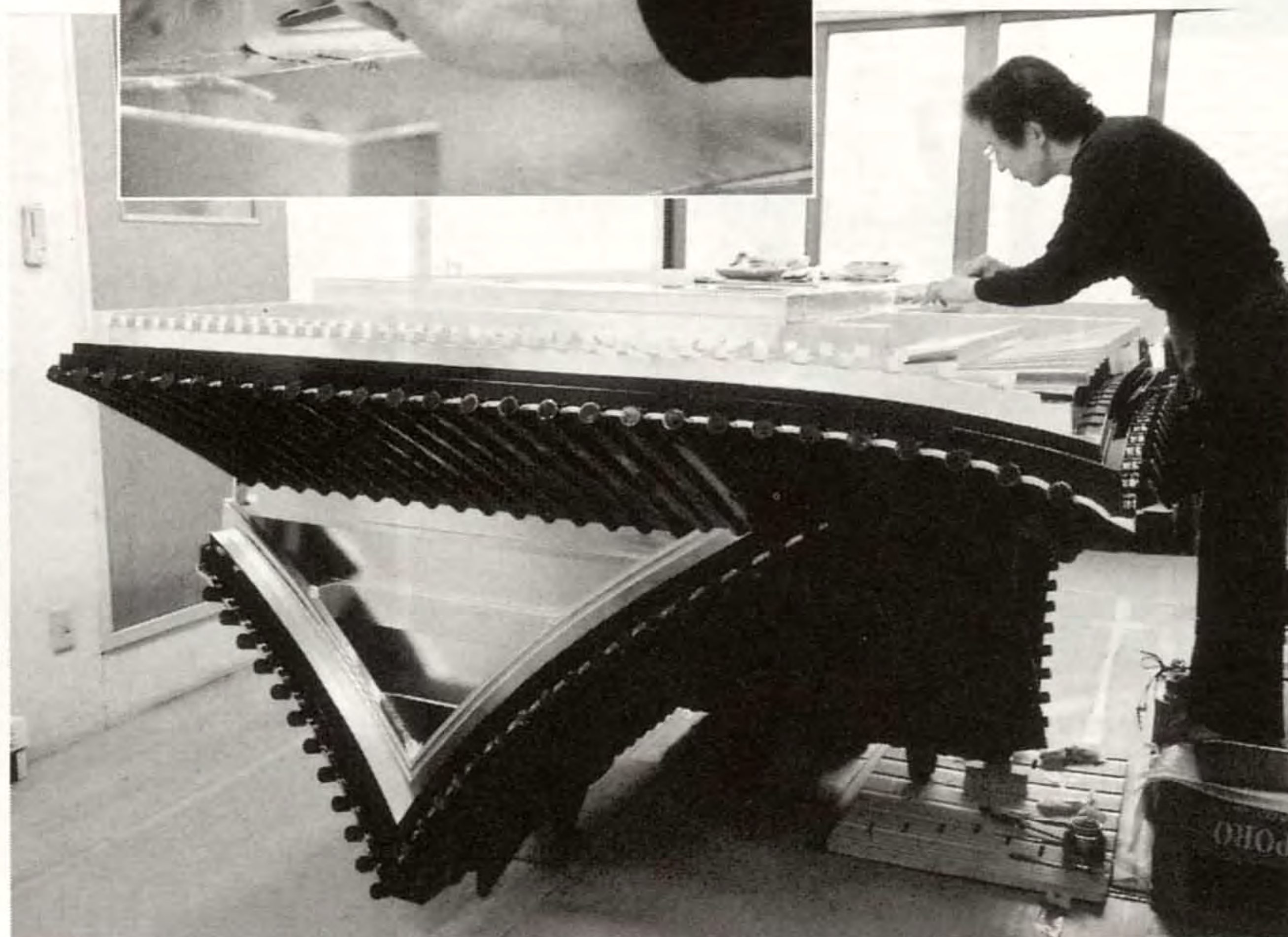


紙を付けた状態の箔を竹ようじで挟んで乗せていく。細かい部分は大きさに合わせて箔を切る。

細工部分より、広い平面に箔押しする方が難しい。継ぎ目を目立たなくするのは至難の技。



宮殿の屋根部分だけでも三寸(約9cm)四方の金箔をおよそ二五〇〇枚使用している。



ミクロン単位で伸ばされた金箔は、手で擦っただけで消えてしまうほど薄く繊細。

「ぶらり門前膝栗毛」編集員募集中！
 私たちと一緒に寺を訪ねて見ませんか？
 お問い合わせ 梅窓院 青山文化村 03-3404-8447

ぶらり門前膝栗毛

その1

【祐天寺】

東急東横線祐天寺駅

住職と記念撮影。

① 祐天寺駅下車。
 ② 祐天寺商店街。
 ③ 壺に何が入っているんだろう？ 気になる。
 「エホウサイ」という中華料理屋さん。リーズナブルで美味しかった。(そうです、ここでお昼を食べました)

新企画、ぶらり旅の第一回は浄土宗の中でも本山級の大きなお寺、目黒の祐天寺さん。快晴の下、当院お檀家さんのとのぶらり散策です。

お寺や神社はその地域のシンボリック的存在。駅からお寺までは住所も祐天寺なら、商店街名も祐天寺。それに落慶法要の稚児行列も二つの商店街を練り歩く、とまさにお寺と地域が密着している街。

そんな祐天寺では累塚に二人は注目、歌舞伎好きの さんは満面の笑顔、本紙歌壇常連の さんも累をお題にして一句詠んでくれました。

忙しい住職にも時間を割いていただき、境内の案内、そして記念写真まで。時間を忘れる楽しい散策になりました。気楽にぶらりと歩くこの新企画、みなさんの参加をお待ちしていま～す。



祐天寺って？

祐天寺は東急東横線の駅ではありません！(念のため)江戸時代に庶民から將軍まで広く信仰を集めた「祐天上人」を開山として八代將軍吉宗から特別の許可を得て現地に建立された由緒ある寺院です。

さん
 平成11年入檀。念仏と法話の会や団参など、お寺の行事には積極的に顔を出す。詠唱のお稽古も熱心です。普段からお散歩好きなので、お寺の散策にもちょくちょく出かけるそう。

さん
 78歳。歴史・俳句好きの昔からの檀家さんで先代をご存知。念仏と法話の会に多数参加。『青山』に常連で俳句を投稿しています。

⑤ みよし通り商店街入口。昔ながらの店が多い。

⑥ 祐天寺名物。鉄道好きには感激の店。昔を懐かしんでは？一度は入ってみたい。



本堂で祐天寺ご住職からお寺の成立ちの話を聞く。「祐天寺は祐天上人を本尊として祀っているんです」



② 祐天寺商店街
 真夏並みの暑さ。日差しが厳しい！

何だ何だ〜！
 鳥居があるぞ。



④ 到着。わくわく。どんなお寺だろう？



かさね塚か！！ へえ〜歌舞伎の出しものなんですえ。

5月15日に新講堂の落慶大法要が行われた。阿彌陀如来と回向柱が五色の糸で繋がれている。



賢い夏の
過ごし方

食養研究家
武鈴子

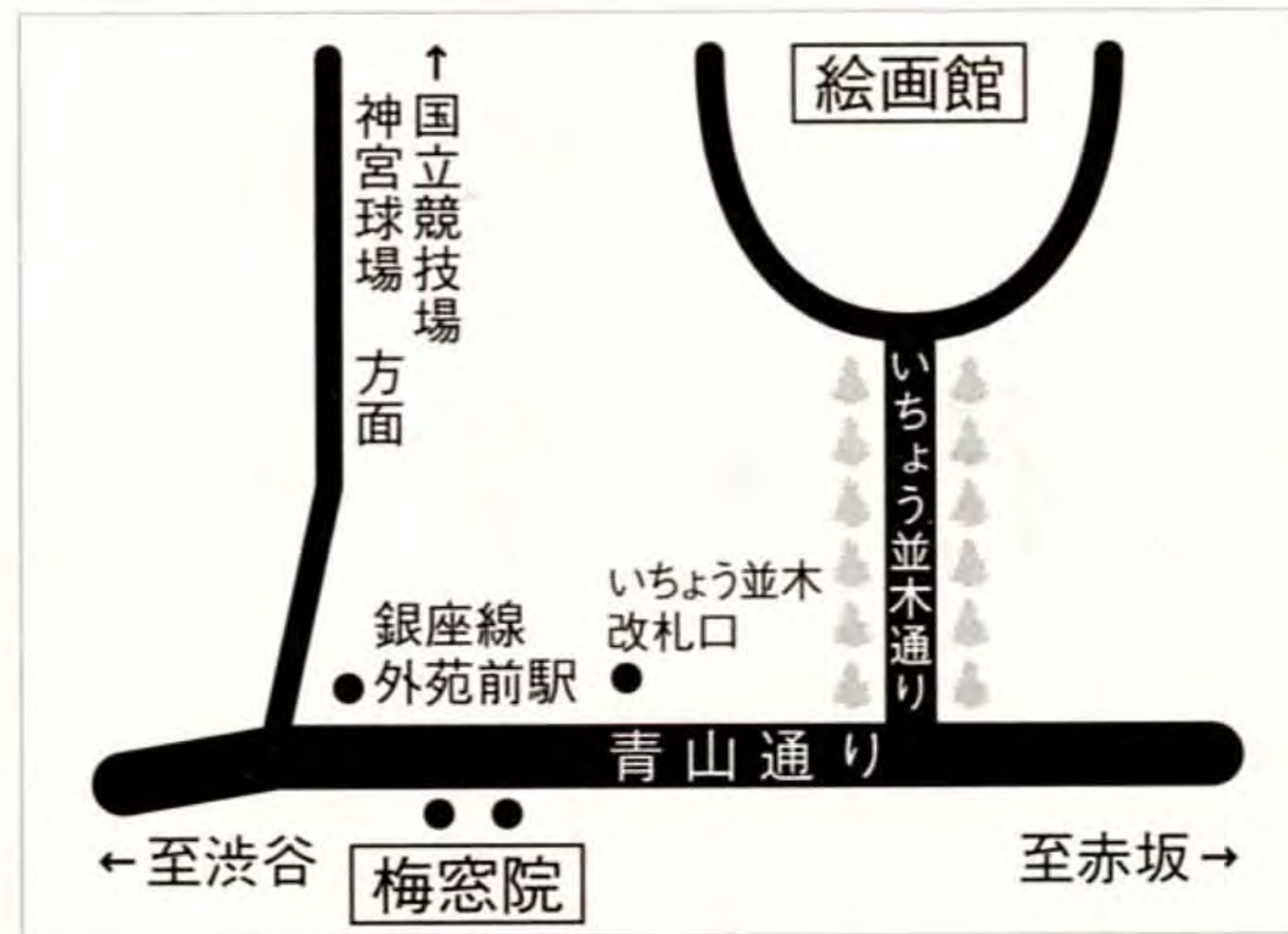
食は命なり

第十五回

夏は暑さのためにどうしても冷たいものを好みがちです。しかし、のど越しがいいからといって飲みすぎると、胃腸を冷やしてしまい、そのために消化不良や食欲不振、下痢などを招いてしまいます。夏バテの原因です。

夏の飲食おすすめ方法

- ①冷たい飲み物の摂りすぎに注意する。
- ②胃に負担をかけないように脂っこい肉類は控えめに。刺身、焼き魚、天ぷら、豆腐、野菜、瓜類などを摂る。
- ③料理に酢を使う。酢は疲れをいやし、消化を助け、解毒し、殺菌する働きがあります。また、料理に酢を加えることにより、料理の味をさっぱりとさせて口当たりをよくするので食欲を増します。
- ④薬味を上手に使う。ねぎ、生姜、青ジソ、みょうが、にんにく、山椒の実、七味唐辛子など。薬味は胃腸に適度な刺激を与えて働きを促進します。また、殺菌力が強いので暑さのために食べ物が腐敗するのを防いでくれます。暑いインドでカレーが好まれるゆえんです。腸内環境をよくするには香辛料を適度に摂ることです。
- ⑤健康茶を飲む。最も理想的な飲み方は、緑茶(500ml)に天然塩をひとつまみ入れて冷まして飲みます。お茶は、体の熱をとって暑さを払い、発汗で消失した水分を補って、口の渇きをいやし、利尿効果があります。真水にはこの働きはありません。ただしお茶には覚醒作用があるので、就寝前は飲まないようにしましょう。賢い夏の過ごし方です。



梅窓院から赤坂方面へ歩くとすぐ、青山通りから神宮外苑へ一直線に結ぶいちよう並木通りが見えてきます。新緑が美しく、木々のトンネルを歩いてみると、若葉の匂いや木漏れ日が心地良く、爽やかな気分になります。犬の散歩や絵を描いている人、ベンチで日向ぼっこを

青山散歩道 神宮外苑 いちよう並木通り



ている人など、さまざまです。お勧めは早朝。人が少なく神秘的な雰囲気漂っています。また、撮影に多く使われており、芸能人に会える確率が高いそうです。このように人々に親しまれる憩いの場所になっています。青山に来た時に足を伸ばして見ては如何でしょうか？
(亜)

青山俳壇

選者・『ウエップ俳句通信』編集長 大崎紀夫

春の季語

◎特選

春雷の 一つは島を揺るがして

(評) 春雷が近づいて、そのひとつがゴロゴロと鳴ったとき、島を揺るがす感じがしたというのである。春雷の鳴る小島の景をほうふつさせる秀句。

◎佳作

藍染の自作ハンカチ春の風

紅梅の花ほぐれゆく夜なりけり

病める身をいとふ余世やはうれん草

白梅の香や石桜を登りきて

芍薬の芽には芽の美のありにけり

◎選者詠

山藤の かげ落としぬる 潦

にわたすみ

大崎紀夫

へワンポイントアドバイス

「句またがりの句」という言葉があります。今回ですと今井さんの「白梅の香や」の句がそれで「香や」が中七にまたがっています。飯田龍太の有名な句「一月の川 一月の谷の中」も「川」が中七にまたがっています。調べを崩さない限り、こうした句またがりの句を作ってみることも面白いでしょう。

投句募集

次回は「夏の季語」でご自由にお詠み下さい。7月21日を締切、9月上旬発送の『秋彼岸号』にて発表致します。住所、氏名をお書き添えの上、ご応募下さい。皆さまの投句お待ちしております。
※〒107-0062 港区南青山2-26-38
梅窓院
「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集
青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、左記の番号までご連絡下さい。
※ウエップ編集室
電話〇三(五三六八)一八七〇

・ 行 ・ 事 ・ 予 ・ 定 ・



第三回 念仏と法話の会

六月十日(木)

法要 午後十二時半〜 本堂
法話 午後二時半〜 観音堂
「五台山紀行」

講師 長野教区寛慶寺住職
水科善隆 上人



お念仏を唱える水科上人

郡上おどり in 青山

六月十九日(土)・二十日(日)

梅窓院 境内
同時開催 郡上八幡物産展
観音堂

郡上八幡での開催に先駆け、ここ青山の地で「郡上おどり」が繰り広げられます。郡上おどり保存会による生のお囃子に合わせ、境内は本場さながらの熱気に包まれます。

昨年の郡上おどりの様子。二日間でのべ六千人の来場があり大盛況でした。

孟蘭盆会法要

七月十三日(火)

観音堂にて

施餓鬼会法要

七月二十一日(水)

本堂にて

秋彼岸会法要

九月二十日(月)

本堂にて

梅窓院本堂落慶法要

十一月二十日(土)



◆ 仏教講座のご案内 ◆

ご好評頂いておりました「仏教講座」が本年度より再開致しました。只今受講者募集中です。ご興味のある方はお気軽にお問い合わせ下さい。

「仏教歳時記」 全五回

講師 勝崎裕彦先生
大正大学教授／香蓮寺住職
次回開催予定
六月十五日(火) 午後六時〜

「法然上人の御法語」 全五回

講師 新井俊定先生
大正大学出版会／上善寺住職
次回開催予定
九月十三日(月) 午後六時〜

※受講希望の方は仏教研究所までお問い合わせ下さい。
TEL〇三―三四〇四―八四四七

◆ 梅窓院だより ◆

本堂使用について
莊嚴仏具搬入の為、六月二十一日(月)から七月十八日(日)の間、二階本堂の使用ができません。この間の回忌法要は観音堂で行ないます。詳しくはお問い合わせ下さい。

施餓鬼塔婆のお支払い方法について

同封の振込用紙で郵便局にてお支払頂くか、当院受付までお持ち下さい。(銀行・コンビニでのお振込みは出来ません。)

― 編集後記 ―

編集作業に加わって、はや三号目。あつという間に過ぎていきました。
恥ずかしいエピソードして、一番困ったのは、取材相手に話を聞くことです。先輩が側についてくれて、私が主に話を伺ったのですが、緊張しすぎて、途中で話が続かなくなり、無言になってしまったこと
とがあります。先輩が助け舟を出してくれて、その場は何とか乗り切ることができました。ありがたいと思いつつ、しっかりしなくてはと自覚した時でした。
まずは聞くことから早く一人前になれるように頑張ろうと思っています。(亜)